

令和2年度市川市社会福祉審議会 第2回高齢者福祉専門分科会 会議録

1. 開催日時：令和2年9月30日（水）午後1時30分から
2. 開催場所：市役所第1庁舎 2階 大会議室
3. 出席者  
【委員】  
会 長 藤野 委員  
副会長 谷内 委員  
委 員 岩松委員、立川委員、中野委員、福澤委員、古瀬委員  
【市川市】  
高橋福祉政策課長、岡崎地域支えあい課長、菊池介護福祉課長ほか
4. 傍聴者 0名
5. 議事  
(1) 次期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について
6. 配布資料  
資料1 第8期計画における施策体系及び進捗管理事業（案）  
資料2 市川市の人口及び認定者数の将来推計  
資料3 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画 進捗管理指標（案）  
資料4 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画 アウトカム（成果）指標（案）  
参考資料 高齢者見守り支援事業ご案内

7. 議事録

(13時30分開会)

藤野会長	(1) 次期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について まず、議題第1 次期市川市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定についてです。事務局より、資料1についてご説明をよろしくお願いいたします。 す。
事務局	(資料1「第8期計画における施策体系及び進捗管理事業(案)」 について説明)
藤野会長	ただいま事務局より資料1についてご説明がありましたが、ご意見、ご質問がある方はいらっしゃいますか。いかがでしょうか。 後の資料2のところに関係してくるかと思うのですが、一人暮らし高齢者の割合が資料2の方にあまり入っていなかったの、そこを後でもよいのですが教えていただきたいと思います。 また、今のこの見守りも大変重要なことだと思うのですが、郵便局との協力ということが書かれていて、こちらのほうは警備会社のガードマンなど、その辺りと協定は結ばれたのですか。
菊池課長	今のご質問なのですが、郵便局や、その上の見守り活動に関する協定については、各事業所との協定を結んでおります。それとはまた別で新規事業といたしまして、今回お配りしたパンフレットにございます、高齢者見守り支援事業を開始させていただいております。こちらは市からの委託になります。警備会社に委託をするという状況でございます。よろしいでしょうか。
藤野会長	何か他にございませんか。船橋の計画の中でも、一人暮らしの割合がかなり年々増えてきているということですので、やはり見守り体制は非常に重要なのだらうと思います。
高田委員	2点ちょっと考えたのですが、まず第7期の計画において、当初、厚労省からの新たな日常生活総合事業というのが謳われていたのですが、第8期で影を落としたのかなという感じがします。それに代わって、1ページ目に「就労的活動の把握・促進」とあるのですが、これはおそらく厚労省のいう就労的活動支援コーディネーターで、これ自体はファミサポみたいなものです。

高田委員	<p>か、そちらに多分変わっていくのかなと思いました。その辺の経過がわかるようでしたら教えていただきたいと思います。</p> <p>また、先ほど委員長からのお話にもありましたように、一人暮らしの見守り支援事業が必要なのかということについては、市川市において高齢者の方がますます多くなっていくだろうということを見るデータになると思うので、見守り支援に限らず高齢者支援に何が必要ということも、第8期でさらに求められてくると思います。これは感想です。以上です。</p>
事務局	<p>まず、ご質問が重なりました一人暮らし高齢者について、現行の計画書には10ページに掲載しております。これは平成37年ですから、いわゆる2025年までの推計を取っております。今回ももう少ししましたら一人暮らしの推計も取っていく予定であります。今回、ご紹介できる資料としてはないのですが、単身高齢者の方の世帯の割合が多いというように認識しています。近隣他市と比べても多いということは、比較ができるようなシステムで見ますと、そういった傾向が出ていることは確認しております。</p> <p>続きまして、高田委員のご質問にありました、総合事業のことになります。今回、第8期の計画書の中では、現在実施しているサービスについて進捗の管理を取っていく、事業量の見込みを立てていくというところに記載をさせていただく予定です。では総合事業の取り組み自体を後退させるのかということご心配もあるかと思いますが、なかなか取り組みとして総合事業にこだわると進められない難しさがあるということは聞いています。ただ、中ではこういうことは総合事業でできないだろうかということで検討は続けてはいるのですが、今は新しいメニューとして示せるところには至っていないというところがあります。ただ、やはりニーズを拾っていきますと、総合事業のサービスでできたらよいのではないかということは度々感じるところですので、引き続き検討は進めていく所存です。</p> <p>続きまして、就労的活動についてです。国から就労的活動のコーディネーターというものが示されましたが、中身がまだちょっとわかっていないというところ。そういったコーディネーターというかたちで実現できるとはちょっとまだ言えませんけれども、生きがいを持って、その方が役割を持って活動することは非常に意味のあることですし、その方にとっての介護予防、そして地域づくりの面で有用だと認識しておりますので、何らかのかたちで推進していくという所存です。就労的活動コーディネーターということであれば、今言いましたように、そのかたちになるという意味ではございませんのでご理解ください。</p>

高田委員	<p>私が新しい総合事業の中で当初できるのだろうかと思ったのは、訪問型と通所型サービスBというものです。これが根づくかどうかというのは感じていました。やはりなかなか難しいのではないかという感じがします。これから地域活動をするうえで、組織的に動くより、個人として動き出しているという、そうしたこれからの生活支援コーディネーターも含めて、仕事と地域活動の両立をイメージしたような活動が行われてくるのではないかと思います。まだ就労的活動支援コーディネーターの中身は私もよくわからなくて、シルバー人材センターとどう違うのかとか、いくつか思うのですが、これはまた詰めていきたいと思っております。以上です。</p>
藤野会長	<p>ありがとうございました。他にいかがでしょうか。</p>
福澤委員	<p>基本目標3の赤字で訂正になっているところです。新型感染症というところで、コロナだけを見ていらっしゃるのでしょうか。一般的には新興感染症という表現を使うのではないかと思います。この後、新型コロナだけではなく、いろいろな感染症が出てくる可能性があります。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。</p>
藤野会長	<p>ありがとうございました。そうですね。今、いろいろな感染症があります。他にはいかがでしょうか。よろしいですか。</p>
藤野会長	<p>それでは、資料2の説明を事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料2「市川市の人口及び認定者数の将来推計について」説明)</p>
藤野会長	<p>それでは、事務局からの資料2の説明について、ご意見、ご質問はございませんか。</p> <p>私からよろしいでしょうか。まず、図表なのですが、例えば3ページの図表が、急激に右型上がりになっているような印象があります。ここは、実は平成12年から次の棒グラフのところは5年おきです。だから見た目に急激に上がるような印象を受けてしまいます。ですから、ここは間に波線でも入れるなどされたほうがよいです。印象的にあまりよくありません。次の4ページ目もそうです。図表というのは視覚に訴えるものなので、パッと見た目で相手に変な印象を与えてしまう可能性があります。よろしくお願いいたします。</p>

藤野会長	<p>また、もう1点お聞きしたのですが、要介護認定率ですが、先ほど図表の9ページで、これはどのような意味なのですか。パッと見ると、例えば一番下の要介護3の方が15.85で、これは足さなければいけないということですね。以前、船橋などを見たら80歳以上から急激に要介護認定率が高くなっていたので、すごく少ないなと一瞬思いました。足すのですね。わかりました。</p>
事務局	<p>申し訳ございません。もう少しみなさまに誤解のない、わかりやすい見せ方をしていきたいと思います。</p>
藤野会長	<p>要介護1、2は出しているのですか。</p>
事務局	<p>推計としては出しているのですが、今回はちょっと重度の方に限らせていただきました。</p>
藤野会長	<p>もう少し増えるのだということを見せていただくほうが、対策もしっかりと取らなければならない印象を持てると思います。よろしく願いいたします。他にご意見はございませんか。</p>
高田委員	<p>今回の計画は2025年と2040年を見据えてということで、そういった部分のデータ取りだと思しますので、その辺りは波線を引くということと、見やすくするということはあると思います。課長さんからもご説明がありましたように、生産年齢人口が減少して高齢者が増えるということ自体が、介護産業にこだわらず労働力不足になっていくのだろうと切実に感じています。特に介護事業所のほうの現場では、介護人材不足、育成定着が厳しい状況になると思います。そこで高いサービスが担保されていくのかなと思うと、先々不安もあります。いずれにしても、今回8期の計画の中で、介護事業所の業務効率化の支援が謳われていますので、この部分のオンライン化も含めて、行政と連携してより効率的になっていくのだろうと思っております。</p> <p>それから、ちょっとお聞きしたいのですが、要支援1と2の辺りで、今後これがどうなっていくのかと気になります。事業対象者というのは、この中にはどのような位置づけになっていくのか教えていただきたいと思えます。</p>
事務局	<p>今回、データを送らせていただいた中では、事業対象者の推計は入れてお</p>

事務局	<p>りません。そのようにした理由は、現状では事業対象者の人数は少ないということがあります。事業対象者ということについて、少しご説明いたしますと、通いのサービス、訪問のサービスを従来介護予防の通所、訪問という括りであったものが、通いと訪問だけ利用する方については、総合事業という区分で使っていただくというものです。ただ、実際、要支援の認定を受ける方が、その2つのサービスだけかという、福祉用具を使われたり訪問看護を使う方も要支援にもいらっしゃいますし、やはりいろいろなサービスを使っていきたいという方がいらっしゃるので、なかなか市総合事業単体としての人数が増えていかないということは認識しています。また、一方で市川市が総合事業で特徴的なことを打ち出していればまた違うかたちもあり得たかもしれないのですが、今のところ総合事業の方がそれまでの介護予防のサービスを違うかたちで使っているということはあまりないと思います。その辺りが課題だと思っております。</p> <p>もう1点、今、業務の効率化についてご指摘がありましたが、介護人材は、すべての産業で人がいなくなっていく中で、今回の新型コロナの取り扱いの中でも介護事業所さんのサービスは絶対止められないものと位置づけられています。そのような中で、サービスを継続していくためには、業務の効率化も然り、後は専門のスキルがなくてもできる業務の整理みたいなものをしていかないと、なかなか難しいだろうという意識は持っています。市としても、今そういったことにつながるような、本当にお手伝い的な人たちを育てていくような取り組みを始めております。気がついたところからスタートしていくことが必要なかと思ひ、少しずつ進めております。いろいろな場面でご意見をいただければと思います。</p>
藤野会長	<p>ありがとうございます。人材不足も大変大きな問題です。そういったことでも、今いわれた効率化や魅力ある福祉現場にしていかないといけません。よろしく願いいたします。いかがでしょうか。他にご意見はございませんか。</p>
藤野会長	<p>それでは、次に資料3と4の説明を事務局からお願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料3「第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画 進捗管理指標(案)」について説明)</p>
事務局	<p>資料3について、ご質問、ご意見はございませんか。</p>

岩松委員	<p>資料3の人口構成から、後期高齢者が前期高齢者より多くなるということです。それから、地域社会の参加の国の福祉政策の中の活動の中に、ボランティア活動の支援事業や高齢者クラブの活動といった施策の中で、高齢者クラブの会員数の減少、クラブ数の減少、ボランティア活動の補助金大体の減少というのが現実にあります。そういった中で、人口構成の方向性と今、実際に活動している成果や進捗状況が、今後のことを考えると、そのような団体との密接な、補助金の問題も含めて、今の制度で充実していくことがあるのか、ないのか。そういったことも含めて所轄の各部署とよく確認を取って、効果のある施策をお願いしたいと思います。人口構成の話を書きますと、男性と女性の比率もありますし、そういったことに対してどのような動きになっていくのか、少し見えるようにしていただきたいと思います。</p>
藤野会長	<p>ありがとうございました。そういったことも踏まえて、今後の新規の事業が等についてご検討いただきたいと思います。</p>
藤野会長	<p>私から1点、ネットの閲覧については、これから開発されるということですか。</p>
事務局	<p>そうです。現時点では市川市はそのようなページを持っておりません。来年度の実施に向けて予算がつけば取り組んでいきます。</p>
藤野会長	<p>今のお話だと、事業所が直接、空き状況など日々の状況を報告してくれないといけないということですね。</p>
事務局	<p>その点につきまして、これだけいろいろな機器を使って便利になっているという状況がありますので、そういった登録をしてもらえればそれはよいと考えがちなのですが、なかなか現場のみなさまに、お忙しい間に送っていただくのが厳しいというのは承知しております。ですから、ファックスを使わせていただいて、事業所さまのほうに、この空き状況で修正はございませんかというかたちで、やっていただきやすいかたちでお願いをするといったことを考えております。</p>
藤野会長	<p>個人的な情報ではないですし、簡単にアクセスして、空き状況を出すことは事業所としても利用者を獲得する意味ではすごく効果があると思います。最近のある程度若い人たちはスマホ等使いこなしているもので、スマホなどでも利用できるようにしたほうがよいと思います。</p>

事務局	<p>こちらにつきましては、市川市オリジナルで開発ということではなく、既存のシステムがございます。船橋や松戸のほうがすでに導入してやっております。そのウェブサイトの運営委託と各施設の空き状況の定期的な確認、こちらすべてひっくるめて委託をさせていただきまして、ケアマネの方や利用者の方が、それぞれ各自で問い合わせしなくても、こちらのシステムで確認できて、利用しやすくなるといったものの導入を来年度目指して、福祉政策課のほうで進めていきたいと思っております。先ほど申し上げましたように、予算の確定がないので、現時点では方向性として目指していきたいということなのですが、内容としてはそういったものになっております。</p>
事務局	<p>追加で、たればの話で申し訳ないのですが、今、まさに藤野会長がいつてくださったように、市川市は今、電子化を売りにしております。みなさまも噂で聞いたことがあるかと思いますが、誰もが簡単に検索できたり、入力できたりするような一番身近な端末であるスマートフォンを使ったものに将来的に展開できていければよいのだろうと思っております。正直申し上げますと、他市に若干遅れを取っているのが市川市の現状です。まず、そこに追いついて、事業所のみなさまからいろいろとご意見をいただいて、こうしたほうがよいのではないかとということがあれば、またそこはリニューアルしていけるのではないかと考えております。予算のほうは何とか頑張ります。</p>
藤野会長	<p>よろしくお願ひします。他市の利用状況がすごく効果的なのかどうか、ご確認いただいて、入れてはいるけどあまり活用できていない、空き状況が1か月前の話とかですとあまり意味がないので、あまり意味のないものにお金、予算を投じるのもどうかと思います。新しいシステムをどこかの業者とタイアップしてやっていただくのも1つの手かだと思います。今、十分に船橋が活用できているのであれば、それはそれでよいと思います。他にいかがでしょうか。よろしいですか。</p>
藤野会長	<p>では、続いて資料4のご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料4「第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画 アウトカム(成果)指標(案)」について説明)</p>
藤野会長	<p>ありがとうございます。資料4について、ご意見、ご質問はございませんか。</p>



高田委員	1点、教えていただきたいのですが、「社会参加の移行」が新しく出ていますが、具体的にはどういったイメージですか。
事務局	社会参加支援加算ということですが、今、正確に説明できるかたちではないです。申し訳ございません。国のイメージのほうを確認したいと思います。
藤野会長	また詳しく確認していただきたいと思います。他にいかがでしょうか。
立川委員	②の「住み慣れた地域で」の「生活支援サービスの満足度」が取り消されております。これはどのような意味で取り消されたのでしょうか。
事務局	こちらにつきましては、お手元の74、75ページをご覧ください。下のほうの最終アウトカムの中に「住み慣れた地域での自立した生活の維持・継続」というところで、「生活支援サービス充足度・満足度」としております。充足度については、アンケート調査を取らせていただいた中で、質問をしております。「住み慣れた地域で生活していくためのサービスが充実していると思いますか」という間で、35%という目標を立てているのですが、これは実際に平成28年度に取ったアンケートで13%という数字になりましたので、そこから取っているということになります。この時点で満足度に関しては、同じようなアンケートを取っておりませんでしたので、指標を立てる際に同じパーセンテージを借りて目標としたところでした。そういった立て方でしたので、なかなか指標としては取りづらく、実際にアンケート調査の中でもこの充足度について聞いた部分についても、結局、生活支援サービスということがあまりわからないといった方が圧倒的に多くおられました。満足度どころか充足度もちょっと指標として利用できる状況ではなく難しいと感じたところでした。生活支援サービスについては、さまざまな方法で範囲を広げたり、新しい方面で始めていくということも考えていますので、そういったところでより多くの方に生活支援サービスが浸透、または周知されて充足を感じていただくところを目指していくところと思っております。
立川委員	ありがとうございました。
藤野会長	他にいかがでしょうか。全体についてご意見、ご質問はございませんか。
谷内委員	先ほど、将来推計のご説明をいただきまして、高齢者人口が増えていくと

谷内委員	<p>ということで、要介護度が高い人も増えるということも当然のことです。そういった施策が必要なのですが、一番重要なのは、やはり健康寿命を延ばすということだと思います。その中で、介護予防と健康づくりの推進というところが重要になってくるのではないかと思います。新たな事業というのはなかなか難しいのかもしれませんが、それぞれの事業の中で重点を決めていくとか、また、男性はなかなか健康教室などに参加しないという傾向がありますし、このコロナ禍でそういったところに出たくないという方も出てきています。個人的にできるメニューを紹介するとか、健康寿命が重要だということが浸透していないところがありますので、そういったお知らせをするなどできるとよいと思います。</p>
藤野会長	<p>ありがとうございます。事務局からいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>おっしゃられたとおりでと思います。事業が並んでいても、それがどのように組み合わせさせて、どのように動いているのかをお示するのがなかなかできていないところもあります。そういったものをわかりやすいようにお示しして力を入れていきたいという考え方もありますし、それぞれの事業がそれぞれの事業に対して働きかけている部分もありますので、そういった関係をお示ししながら、こういったところは弱いから強くしていこうとか、そういった発想で整理するように取り組んでいきたいと思います。</p>
藤野会長	<p>健康寿命で体操クラブなどに行くのが難しいということですよ。個人的に私もジムにいますが、高齢者が多いです。やはり自分で健康管理をされているので、そういったところで入会金を補助できるとよいですね。若い人に交じってやるのも社会参加になると思います。</p>
地域支えあい課長	<p>藤野会長のおっしゃるとおり、これまでいきいき健康教室という長年の事業を続けてきてはいるのですが、同じ方が入ってこられるので、新しく高齢者域の年齢に入られた方、それから男性の方に参加が大変難しくなっています。入っていただく気持ちになっていただけなかったりということもあります。スポーツジムは男性の会員が6割です。今年度から、スポーツジムを利用した介護予防を含めた体操教室を企画いたしました。今、ちょうど募集を始めているところですが、着々と申し込みをいただいているところです。この方法が、効果が出ている様子がわかってきましたので、来年度に向けても、これまでのいきいき健康教室を見直ししながら、より多くの方々に期待を持つ</p>

	<p>ていただいて、ご自身の日常生活での中での介護予防を意識していただけるような、そういった啓発を進めていきたいと思ひまして計画をつくっているところでございます。以上です。</p>
藤野会長	<p>ありがとうございます。私も通っていると老人クラブにきたのかなと思うくらいお年寄りばかりのときもありますので、地域の民間の事業所もうまく活用しながらやれると、今いわれたような健康寿命も延びていくのではないかと思います。よろしくお願ひいたします。</p>
藤野会長	<p>他にいかがでしょうか。 では、これで第2回の高齢者福祉専門分科会を終了いたします。</p>
事務局	<p>(事務局より、今後の予定について説明)</p>

市川市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会

会長 藤野 達也